

義務でもなく、

得にもならないことをなぜ？

今朝のI氏は、杖（つえ）をついてつらそうに歩いてやってきました。これまで彼は、小学生の分団と一緒に姿を見せかけていましたが、最近は、小学生の歩くスピードについていけません。小学生たちの後をゆっくりゆっくり歩いて、いつもの持ち場にやってきます。

I氏とは、毎朝、中央道ガード下北側の横断歩道に立っている地域の方です。年の頃は、七十を過ぎたあたりといったところでしょうか。二年半前に彼と出会いました。最初は小学生たちを見守りながら、途中まで一緒に登校していたのですが、二カ所の横断歩道で生徒の横断を支援している私の姿を見て、手伝ってくれるようになったのです。今では南北に走る横断歩道を彼が、東西に走る横断歩道を私が担当し、交通整理しながら生徒たちの安全を見届けています。

二人で見守り続けて二年が経ちましたが、最近I氏の体調が思わしくありません。彼曰（いわ）く、「脊椎管狭窄症」とのこと。背骨内部の神経の通り道である脊柱管（せきちゅうかん）が狭くなることによって、腰や脚の痛み、しびれなどさまざまな症状が現れる病気です。

「体調が悪いときには、無理をなさらないでくださいね。」私はこう言いましたが、彼は毎日杖をついて、横断歩道までやってきます。二学期に入ってから、四十分間立ちっぱなしがかなりきついでしたので、生徒の姿が見えないときには座ってもらおうと思い、私は椅子を準備しました。

よほどつらかったのでしょうか。彼は私に礼を言うのと、すぐさま椅子を利用しました。彼のその様子を見て、「もってきよかったです」と、ほっと胸をなでおろしました。椅子がなかったら、彼は痛みをこらえて立ち続け、無理をし続けたに違いありません。今では「立つ」「座る」を繰り返しながら、中学生の安全な横断を支えてくれています。

北中学生のあなたは、I氏のことをどう思いますか。バス通学の人も、登校する方向が違うので彼に会わないという人も、そういう人物がいることについて考えてほしいのです。

毎朝中学生の安全を見届けることは、I氏のやらなければならぬことではありません。得になることもないでしょう。おまけに、足や腰に痛みがあり、移動するだけでも大変な状態で、彼は今、中学生のために取り組んでいます。そんな彼にあなたたちができることは何でしょうか。地域貢献とは、彼のような目立たない存在に気付き、深く考えることから始めるべきかもしれません。

（九月十一日 記）